

あなたは
私の内におられたのに
私は自分の外にいて
そこであなたを捜し求めました
そして、あなたのお造りになった
被造物の美しさに魅せられて
私はそれに飛びつき
醜くも自らをおとしめていったの
です
あなたは私と共にいてくださった
のに
私はあなたと共にいませんでした
被造物の美しさは
私をあなたから遠く引き離しまし
た
もしあなたが創造されなかったら
いまだに存在さえしてはいないはず
のはかない美に
私はとらえられたのです
あなたは大声で叫びを上げ
私の聞こえない耳を突き破りまし
た
あなたは、ほのかな光、そしてま
ぶしい輝きで、私の見えない目か
ら闇を取り払ってくださいました
今、私はあなたの良い香りをいっ
ぱい吸い込み
あなたをあえぎ求めます
あなたの味を知った私は
あなたを求めて飢え渴きますあな
たに触れられた私は
あなたの平和を
求めて燃え上がります」

『クリスチャンとして
思う母の気持ち』

宮崎 ローズ

二〇〇七年一月十四日。私にとつて二人目の孫「サラ」が、洗礼を授かりました。今は、ただただ、安堵の気持ちでいっぱいです。

この日をなんとか迎えることができ、無事に洗礼を受けられましたことは、娘婿の承諾や家族のサポートを得る事ができたからで、神様に感謝しております。

フィリピンでは、クリスチャンの家庭ならば自らの子供にキリスト教信者として成長するように願う、信者教育を受けさせるのが当然という考えがあります。私は、そういう環境で育つたため、子供にそうするように努め、また子供だけでなく、孫にも同じことをするのが義務と思っています。

ですから、娘と息子が洗礼・堅信を受けられたことは、本当に嬉しかったですし、孫のキラも洗礼を受けられた事は、本当に感謝で

す。そして今回はサラの洗礼も授かることができ、何か祖母としての役目を果たせたという感じで満足し、また感謝しています。

しかし、日本で育つた娘は、フィリピンの習慣を当然と考えませんでした、堅信式後教会から足が遠のいてしまいました。これは私にとつてはとても残念なことです。

そんな中で、孫に洗礼を授けるよう話をした時、娘が反対しなかつた事は、私にとつて大きな恵みであると感じました。サラの洗礼を授かる前、娘は何度かシスター高良と面談をして洗礼の準備することになりました。その時、娘婿も承諾して一緒に準備したのですが、なんだか楽しそうな様子でした。

サラの洗礼を授かりホッとしている今、家族には元気でいてほしいと願っています。

娘は、孫たちが大きくなつたら日曜学校に入りたいと話しており、私は嬉しく思います。

実は私には、昔から願っている夢があります。それは、家族全員

で毎週日曜日教会に行つて、家族並んでミサに授かることです。

ところが家族の悩みは尽きることなく、私の考える計画は思い通りにいかないことがたくさんあります。それでも日常生活の中で親子共々、成長しているような気がします。例えば、教会になかなか足を運ぶ事のできない子どもたちにも悩んでいましたが、よくよく見ると、キリスト教の精神で生きているなあということに気付いたり、シヨックな出来事があつても夫のアドバイスや見守る態度、友人の祈りで「事実を受けとめる」ことが徐々にできるようになったことなどがあります。私の信者生活に対する夫の理解には、本当に感謝です。

いろいろな事がありますが、神様は、少しずつ私の夢をかなえてくださっているような気がしています。

神様とお祈りをしてくださった皆様に感謝！

